



Q：便の出があまり良くなくて、大腸がんではないかと心配です（40代）

A：大腸がんは50歳過ぎから増加し始め、高齢になればなるほど多くなります。部位別発生頻度は、盲腸6%、上行結腸11%、横行結腸9%、下行結腸5%、S状結腸34%、直腸35%となっており、S状結腸から直腸に多いのが特徴です。

症状は発生部位によって異なり、左側結腸（おなかの左・出口側）では便柱狭小（細い便が出るようになる）、便秘などの便通異常、腹痛、腹部膨満感などがあり、出血や便に血が付いてくることもあります。しかし、右側結腸（お

なかの右側）では、貧血、体重減少、しこりなどの症状となります。ただし、これらはいずれも進行がんの症状であり、早期大腸がんでは多くの場合症状はありません。進行しても、大腸内腔の4分の1周以下の病変ならば、症状はほとんどなく、半周を超えると腸内容の通過障害を起こすようになります。特に左側結腸の



全周性病変になると排便困難、便秘、イレウス（腸閉塞）を起こすことも。便通異常の出現には注意が必要であり、早めの検査をお勧めします。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニスコー北口駅前ビル2F）

☎055・288・1801